

仁淀川地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日 時：平成21年9月2日14：00～16：00

場 所：日高村社会福祉センター2階ホール

1. 議 事

(1) 全体スケジュール等について

- ・産業振興計画は、県が主体となり取り組む「産業成長戦略」と地域が主体となり取り組む「地域アクションプラン」からなる。
- ・今年の4月から地域本部の中に地域アクションプランの実行支援チームを設け月1回程度の地域本部会議を開催しながら、事業の進捗を管理している。
- ・地域アクションプランの内容等の変更は、「地域アクションプランフォローアップ会議」を経て、9月と1月に予定のフォローアップ委員会で決定していくことになる。

(2) 地域アクションプランについて

1) H21年度の取り組みの進捗状況について

- ・仁淀川地域では35項目のアクションプランがあり、全体としては計画どおり進捗しており、事業実施の段階になったものは、順次、補助金等を申請して実行に移している。
- ・観光をテーマとした取組みについては、連携して進めていけないのではないかと考え、仁淀川流域交流会議や地域資源活用共有会議内に設置予定の観光部会で具体的に検討していくことを考えている。
- ・また、牧野先生ゆかりの市町村ということで、日高村、佐川町、越知町が「牧野先生生誕150周年」に向け、牧野植物園とも連携した取組みをしようという動きがある。

2) 修正・追加案件について

- ・アクションプランNo.2「土佐文旦の加工」は、事業主体に「県内酒造会社」と「土佐文旦加工組合」を追加し、平成21年度の事業計画に補助対象となる搾汁施設の整備を加え、本格実施ということで仕分けランクをCからAに変更。
- ・アクションプランNo.25「企業進出による雇用の増と地元企業の活性化」は、事業主体に「食品会社」を追加し、事業計画に平成21年度の補助対象となる新ブランドの専用工場の増設等を加え、仕分けランクをBからAに変更。
- ・今後の重点的な取組みとしては、まだ事業化に移れていないアクションプランについて産業振興アドバイザーを活用し、具体的な事業に移れるようにしたい。
- ・また、各種団体の会合等に参加しながら、引き続き住民の方への産業振興計画の浸透を行いたいと考えている。

【意見交換】

- ・地域本部会議を今までに4回やっているが、月に1回の会議ではどんなことをやっているのか。
- 年度当初の会議では、アクションプランのテーマごとに、支援チームと支援の事業計画（進捗管理シート）を作るといったことを行っている。その後の会議では、アクションプランの進捗状況をこのシートで報告し、問題のあるところについて協議するといったことを行っている。また、直近の会議では新しいテーマがあるかということも議論している。今後も同じような形で事業の進捗状況を確認しながら、事業をより良い形で進めたいようにしていくことを考えている。
- ・地域本部会議で何かを決定していくということではない、という理解で良いか。
- 計画内容の見直しとか新しいテーマを加えるのは、フォローアップ会議の役割になっている。地域本部会議では、テーマごとに支援チームを作り具体的に支援するとともに、その進捗状況を管理していく。
- ・アクションプランNo.19「土佐和紙の販売促進」について、土佐和紙の原料は県外産であるが、県内産の調達といった視点はあるのか。
- 県内産の楮（こうぞ）ということ言えば、地域内の製紙会社が平地で規格化できる栽培を行い、皮剥ぎなどを機械化すれば価格競争もできるのではないかと、研究に取り組んでいる話がある。今までと違うやり方で生産力を上げることができないか、こうした動きの中で考えていきたい。
- ・アクションプランNo.29「グリーンパークほどの多面的な活用」について、環境学習をやろうとしているが、いの町では協働の森のパートナー企業が5社あり、環境学習の検討の中にこれらの企業を入れて欲しい。
- アクションプランの動きの中で、これからの町の方で企画をだして検討することになっている。企業に声をかけ、その力も使って地域のこうした事業を行うこともできると思うので、いの町が行う委託事業の中に参加するのか、或いは環境学習を支援するチームを作ってもらえるかわからないが、いの町と一緒に声をかけてみることはやってみたい。
- ・都会で四万十川の散策マップが1冊1,200円で売れている。仁淀川流域でも観光パンフレットをグレードアップしてやりたいという考えがあるが、流域全体では、このままでは龍馬伝には間に合わない。いの町単独で12月までに仕上げようかという思いもあるが、流域で連携して取り組む場合、期限はいつごろと考えるか。
- 地域資源活用共有会議の観光部会で議論する話と、現在協議している土佐市・いの町・日高村からなる仁淀川下流域の協議会での協議、これを受けて流域の6市町村と高知市からなる仁淀川流域交流会議での協議、こういう場を使って、できるだけ早く具体的な取組みをしたいと考えているが、具体的なところはまだ見えていない。
- 龍馬伝の話があったが、「土佐・龍馬であい博」のスタートに向けて、県が事務局となる推進協議会では広報活動など行っている。これまでは主に旅行エージェント向けのPRを行ってきた。この秋以降は一般観光客向けのパンフレット作りを始める予定であり、10月には公式ガイドブック的なものを作る予定。
また別途、観光コンベンション協会では観光PR冊子「ゆるり」を作っており、こちらは今後は「土佐・龍馬であい博」を中心とする展開になっていく予定なので、この中へできるだけ地域での新しい取組みなどを取り上げていきたい。
1月16日以降は高知駅前の「とさてらす」がスタートし、県内の観光・物産情報を一元的に情報発信していく。

- ・（「とさてらす」についても）龍馬伝の期間中は龍馬一色でいくという話か。
- 龍馬が中心になるが、県内の観光情報は全て集まるような形になる。
- ・東京に出張すると、最近長崎の大きいポスターが目立つ。「さるく長崎、新幕末伝」の大きなポスターが、モノレールの中や地下鉄、電車の中に貼っている。高知の方は遅れている感じがするが。
- 高知県でも秋以降、一般客向けの全国PRを展開していこうと、キャラバン活動やテレビ・雑誌等へのPR活動を予定している。
- ・三叉栽培を森林組合員の現金収入・暮らしの足しにできないかと思っている。
- アクションプランの中にも、特用林産物にシキミ・サカキをテーマとするものがあり、山の中で現金収入に繋がればということで、考え方が似ている。三叉の場合、需要先は造幣局とかになるとの話だが、需要者が見つからないと取引が伸びないので、具体的に事業になるということになれば検討したいと思う。

（3）産業成長戦略について

1）H21年度の取り組みの進捗状況について

- ・4月に地域本部を立ち上げ、9月から金融機関のOBの方も配置。
- ・4月から広報誌とか新聞、テレビ等の広報活動に取り組んできた。また、10月23～25日には鏡川河畔で実施のフェスティバル土佐ふるさとまつりでもPRを行う。
- ・高知県地産外商公社が8月3日に立ち上がった。産業振興計画に基づいて県産品の販売、観光や食文化等、丸ごと高知県を売り出していく。
- ・県下130企業が参加し「成長分野の育成支援研究会」を設置し、8月5日に第1回研究会を開催。

【意見交換】

- ・アンテナショップはいつ頃決まるのか。
- 立地をいくつか絞って調整しているところ。いつ頃かは、まだ申し上げられない。